28Z-am13

薬学部における医療人教育の一環としてのへき地診療所実習の試み

○荒木　良介[1], 中嶋　弥穂子[1], 中里　未央[1], 前田　隆浩[1], 大園　恵幸[1], 青柳潔[1], 塚元　和弘[1], 畑山　範[1]（[1]長崎大院医歯薬）

【目的】長崎大学薬学部では平成 19 年度から離島へき地を多数抱える長崎県の地域性を活かし、五島列島の病院、薬局、保健所、役所および福祉施設での離島医療・福祉・保健実習（離島実習）を開始した。平成 20 年度の実習では、上五島地区の実習プログラムに新たにへき地診療所実習を取入れた。本発表ではへき地診療所実習の概要と、学生による実習評価の結果を報告する。

【方法】病院と薬局での合計 6 週間の実務実習を終了した薬学部 4 年生 84 名全員を 21 グループに分け、6 月から 12 月まで上五島コースか下五島コースのどちらかで 1 週間の離島実習を実施した。上五島コースの半分のグループの実習プログラムに、へき地診療所実習を取入れた。離島医療に対する認識や離島実習の内容について実習の前後にアンケート調査を行い、その結果からへき地診療所実習を取入れた実習プログラムの評価を行った。

【結果・考察】へき地診療所実習を行ったグループでは、離島医療に興味があると回答した学生の割合は実習前の 70%から実習後には 100%に上昇した。一方、へき地診療所実習を行っていないグループでは、その割合が実習前の 80%から実習後には 70%に減少した。また、へき地診療所実習を行ったグループの実習内容全般に対する満足度は、行っていないグループに比べて有意に高く、その理由として学生がへき地診療所で医師や看護師、栄養士と共に患者と接することでチーム医療を体験できたためと思われる。これらの結果から、本離島実習に対する学生の興味や認識がへき地診療所実習を通して高まったことが示された。へき地診療所実習は地域における医療人としての薬剤師の役割を体験することができるため、薬学部における医療人教育プログラムとして有用であると考える。